

第2回 倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会議事録（要旨）

日 時 平成25年2月25日（月）

10:00～12:00

場 所 倉敷市本庁 206会議室

出席委員 河邊委員長、榎本副委員長、青江委員、井上委員、片岡委員、洲脇委員、
豊田委員、八島委員、渡辺委員

事務局 環境政策部 中原次長
環境政策課 三宅係長、椿野副主任

1 開会 あいさつ（環境政策部 中原次長）

2 議事

事務局から説明を行った後、委員から質問、意見があった。

委員長 「現状の課題の整理」「目標と基本方針の整理」についてご意見を伺いたい。
具体的な事例の話し合い・審議は第3回目になるのか。

事務局 今回の意見を参考にもう一回見直す。
「地域ごとの自然環境とその特徴」の項目など、全体的にボリュームが出ているので、そのあたりも含めて方向性を示していただきたい。

委員 前回より、倉敷らしさや特徴が出てきている。種の確認は、自然史博物館の協力を得るのが良い。倉敷市に自生するアサザは花を付けないタイプであり、かなり珍しい、写真などの掲載はそのことに気を付けること。

事務局 写真などデータ収集についても委員に御協力いただきたい。

委員長 公表版について、少なくともインターネット上ではカラーとするのか。

事務局 インターネットと冊子と両方での公表を考えている。インターネット版はカラーの予定。冊子については、今後の予算次第と考えている。

委員長 図鑑的なものは作成するのか。

事務局 今のところ、地域戦略の冊子とは切り離し、例えば、戦略中の具体的な施策として取りまとめる方向で考えたい。

委員長 写真の整理方法は？

事務局 他の政令市を除く基礎自治体も冊子は概ね100頁以内である。一般の方が手に取った時に軽いものにしたいと考えている。

委員 1-1～1-3ページにこの地域でなぜいま戦略をつくるのかというのが、書かれていない。この地域でなぜ地域戦略を作るのか、日本や地球の生物多様性保全の為に、この地域が持っている固有種とか希少種とか、あるいは生態系をしっかり守っていくという視点を示すべきではないか。その事を通じて地球規模のあるいは日本の生物多様性に貢献していくという、視点をここできっちり書くべきではないか。

「言われています」、「与えているとされています」は、表現が曖昧、断言し、そのうえで引用文献をきっちり書く方が望ましいと思う。

委員長 せっかく作るのなら、倉敷市の特徴を活かしてしっかりしたものが必要。どこにでもあるようなものではないものを考えてまとめていきたいと考える。

委員 外部の人間として倉敷のらしさというのをどこから読み取ればよいか難しい。例えば4-1の「戦略の基本理念」や「目指すべき将来像」のところは、キャッチフレーズ「自然と人がにぎわい、健全で自然の恵み豊かなくらしが続くまち」を姫路に変えてもそんなに問題はないと感じる。上の文章の中に少し倉敷というまちの風土に関わる記述に、もう少し具体的な事、例えば二つ目の文章で、「地域ごとに特色を持った多様な歴史が作られ、文化が育まれてきており」という例えばその中に具体的にどういう歴史がありどういう文化なのか少し書かれていると、もう少し地域性が伝わってくるのではないか。

委員長 この項目で、目標・理念に合わせた文にする事で少し強化させた方が良く思う。

委員 2-2ページの一行目、地球サミットで採択したという書き方は間違いではないか。地球サミットの時には作成されていた。

「愛知ターゲット」は間違いではないが、環境省などの資料は「愛知目標」と日本語で書いてありこの方が良くはないか。

(2)の3行目に、「その後2002年」とあるが、正確に言うと1995年に第1次国家戦略がある。そこまで詳細に書く必要があるのかということもあるため、工夫すべきではないか。

2-2ページ、本文(3)の最後の1～5行目、ここは基本理念などに関係する非常に重要なコメントだと思う。基本理念を導くような文章が良いと思う。中核市の地域戦略として、もう少し格好よくした方が良い。

(3)からこの地域の自然について書かれているが、どの時代で遡って書くのか。いつ頃からどう変化してきたか、水島開発あたりでも、戦後からでも、明治以降でもよいと思う。地域の自然は第二次大戦後、水島などの開発で、干潟とか自然海岸が消失し、現在の自然なり農用地や都市的な用地なりに変化してきたという現状を踏まえ、生物多様性の保全をこの地域でやってくんですよ、保全していきましょうという事を導くような仕掛け、格好いい工夫があってもよい。

委員長 倉敷市民が読んでも、初めて来た人が読んでも、まずは、倉敷の自然環境の現状と経緯が理解でき、それが危ない状況なので戦略が必要だということが伝わるようにすべき。

委員 一章、二章位まで、他の自治体の戦略と同じような事が書かれている。一般の人が一番読みたい情報は、おそらく倉敷市の地域戦略とは何ぞやという四章あたりではないか。思い切って四章あたりを冒頭に移動させて、国や県の戦略との違い、概要説明などは資料編の方に入れる方が、倉敷市がこれから何をしようとしているのかが、パッと開いた時に目に入ってきてよいのではないか。

今の構成だとおそらく四章にたどりつくまでに、この冊子を閉じてしまう方がかなり多いのではないか。三章の課題は、1-3ページあたりと類似しており、3-3の所を最初書けば十分だと感じている。

委員 地域の話をもっと持ってくる事で、倉敷市らしい書き方や表現をする必要がでてくると思う。

委員 生き物を一覧のように見せるやり方が多いが、種の保全だけでなく、生き物同士の繋がりや生態系が視覚的に読み取れる資料があれば面白いのではないか。

委員長 生態系、種、遺伝子の多様性の一般的な話だけでなく、生態系の中でそれぞれがどのように関わっているかの説明があった方が良くもしい。

委員 三章は生態系が弱い。それぞれの地域に貴重な、地域が誇るべき、守るべき生態系があることをきちんと書くべき。

3-1,3-2ページについては、地域の自然・生態系を踏まえて自然の特徴全体がわかるような仕掛けが必要。土地利用のグラフと自然環境の区分を連携させて、生物多様性の視点から地域の自然についてしっかりわかるようにしてもらいたい。

地域の全体像について、森林・山林などの自然の側面からみた割合が明確にわかる資料を地図付きで書いて欲しい。コンパクトなもので良い。地域の生物多様性のために重要な藻場、干潟、海岸、ため池、遊水地があまり出てこない。きっちり書く必要がある。藻場の面積など。

委員 例えば児島付近には日本的にも誇るべき藻場がある。干潟は水島開発でかなり消失したが、高梁川河口付近に何ha残っているなど、量的なことをはっきり書いてはどうか。

景観資源についても現状を書いた方がよいのではないか。

委員長 それぞれの地域の生態系はもう少しわかりやすい方が良い。岡山県は瀬戸内海に面していて岩場や藻場がある。専門家もいるので海に関する記載を入れてはどうか。ただシタナゴなど、希少な生き物について記載するのは難しい部分があるのではないか。

委員 難しいが、配慮が必要。

委員長 ミズアオイのように保全について周知徹底されていれば良いが、そうでない場合はどうか。

委員 地域戦略の策定に当たって、情報公開の範囲については考慮しておかなければならない。魚類の絶滅危惧種について詳しく公開されると密漁などの危険がある。植物も盗掘がある。それらを考慮して、どの範囲まで公開するのか協議しておく必要がある。

委員 倉敷市の課題を考えるために、土地利用図、海岸線、藻場干潟、水島開発などに関する昔と現在の地図を示すなど視覚的に比較できる資料が必要。

- 事務局 水島地域については入手できるのではないかと。特徴的な場所に対する経年変化を特徴として出すことはできる。
- 委員 岡山県も倉敷市も自然海岸がどんどん潰されて、ほとんど残っていない。沙美や唐琴の浦など、現在も守られている所ではなく、鷺羽山の下あたりの海岸など、自然海岸の保全について踏み込んだ方が良い。市、県、国の線引きが難しいが、海は重要なので、生き物や生態系についてもっとふれた方が良い。
- 委員 災害対策・震災対策として、大規模な工事が急速に進むことが予想される。人命・財産が最優先されるのは当然だが、おそらく海岸・海域に防波堤・防潮堤を作る計画もどんどん上がっていくのではないかと。そのような際にこの戦略がどのような位置づけで関わっていくのか。堤防補強により、海流・水の流れが変わり、生物層が大きく変化するのを何度も見てきた。次の課題にはなるが、防災対策と生物多様性保全が矛盾することが出てきた場合、倉敷市としてどのように配慮するのか少し考えておいてほしい。
- 委員長 これまでも大洪水などで高梁川が補強されている。環境審議会でも協議されると思うが、防災と同時に生物多様性保全についても考慮することをどこかに記載できないか。
- 委員 目標として具体的な対策ができれば良い。
- 委員長 これまでも農業用水の水路改修などにより、カエルがいなくなっている。それらの新しい工事も含めて。
- 委員 三章の書き方に関わるが、生物多様性地域戦略として、図鑑的に書くよりは、例えば市内の森や山がどのような状態で、どのような問題点を抱えているか、同じ常用樹林で景観的には類似していても、由加山のシイと向山などの元里山でアカマツ林が常緑林と置き換わっている場所では、生物多様性の質が異なることをしっかり解説する必要がある。その上で、生物多様性の質を高めるには何を改善すべきなのかをきちんと言う。各地域の解説の部分で書いても良いと考える。
- 委員 倉敷市としての特徴を前面に出してもらいたい。
- 事務局 目標と基本方針について(説明)
- 委員 雑木林・マツ林には触れられているが、竹についての記載がない。放置された竹林が里山の生物多様性を大きく低下させているので、竹の話に記載すべき。
- 委員長 竹は繁殖すると中の雑木なども全部ダメになる。倉敷だけでなく、東京以南の地域の大きな課題である。
- 委員 4-1ページについて、文章は全般的にもう少し練った方が良い。
最初の段落には生物多様性から見た現状認識が記載されているが、危機の認識について記載されていない。戦略策定の意義にも関わるので、地域の生物多様性の危機の認識について明確に記載すべき。
次の「私たちが～責務があります」の部分に、この地域の生物多様性の保全が日本や地球規模の生物多様性の保全に貢献することを指摘する一言があった方が格好いと思う。
次の「そして～いかなければなりません」の部分は二つの重要なことがミックスされているので

弱い。「皆で責務をはたす」ことをまず明確に書き、見据える方向として「自然と共生する持続可能な社会を実現する」ことを段落を区切っても良い。丁寧に格好良く書いた方が良い。

「自然と共生する持続可能な社会」について、言葉の一つ一つをしっかりと書く。自然と共生するということと、持続可能な社会についてしっかりと書きこんでいく。DはA・B・Cを書き直した後で、もう一回見直す。

目指すべき二つの将来像について、「続くまち・継承するまち」とあるが、これは経過状況なので、イメージとしては完成されたものを書いた方が良い。

目標・将来像だから固定した方が良いと感じた。「続く、継承する」ではなく、継承するような社会システムができあがっているイメージの方が良い。

基本理念と将来像は区別した方が良い。

委員 行政が作る戦略は、市民参画が弱くなりやすい。地域の人の声などが出てくるページがあったり、市の目標とは別に、例えば小学校などで環境教育や保全活動している所があれば、「僕たちはこうしていくんだ」という宣言などを記載して、それが市民を含めて市の目標になれば、少しは主体作り・アクター作りに繋がっていくのではないかと思う。

委員長 これまでも市では様々な良いプランが作られているが、市民が持続的に参加する気になるような物をまとめることが必要。市民が励みになり頑張ろうという気持ちになるようなものを。

委員 市民が自分たちが何をすればいいのか、何を目標にすればいいのかを提示する必要がある。国家戦略と同様に数値目標を設定してはどうか。例えば、国の目標の「絶滅危惧植物の種の保存」15%は倉敷市では既に達成している。倉敷ならではのデータが自然史博物館にあるので、それらを踏まえ、独自の数値目標を設置してはどうか。

例えば、JAさんの目標だったら、減農薬に取り組む農家を増やすまたは少なくとも現状から後退させないことを数値目標にするなど、「倉敷ターゲット」を作っておきたい。

事務局 西宮市が具体的な数値目標を設定している。倉敷市では環境基本計画の中で、アンケートの数値や実際の環境配慮型工事の施工数などいくつかの目標を立てて取り組んでいる。短期的な目標を仮に2020年に定めているが、その期間内で実施していくとは言えると思う。それ以外の数値目標についても提案があれば、なるべく積極的に取り組みたい。

委員 里地・平野部の農地に関して、国が作成する環境保全型農業、保全地域と一体となった農業を進めていく、ビジョンを示していけたらと思う。今の農地についても、利水と排水路を区別する、啓発的に菜の花を植えるなど、地域的な農業のあり方や環境配慮を考えながら、地域全体で実施できる内容を謳えたら良い。

委員長 自然環境分野については、林業・農業者の意識や取組みが最も大きなポイントになると思う。農業組合の立場として、自然環境への農業者の意識はどうか。

委員 環境保全型農業を実施している地域もあるが、認識はまだ少ない。倉敷は市街地に面した農地が多いので、地域ぐるみの環境保全型農業ができたら良い。そこから希少な魚などとの関係やその生き物が棲む環境を重視できるような方法ができればよいと思う。

- 委員長 高齢化が進み、機械を使用する簡単な農業をしなければならなくなっていることは理解しているが、小川や農薬について目的や取組みなどが少しでも記載できればと思う。
- 委員 現状では、毒性の低い農薬の使用や、農薬・除草剤を川に流す場合は一週間は田に水をためてから流すなど、農薬の流出を抑制する方策を進めている。
- 委員長 それらの取組みについてももう少し記載できれば。
- 委員 4-2の姿は、文章で残すのか。
- 事務局 イメージと対比するものという形で。
- 委員 文章をもう少し強化したい。まちの将来の姿について、生物多様性保全の観点から見た一部がピックアップされているが、書くべき100%の言葉は書けていない。
- 事務局 絞り込んで記載している。
- 委員 文章で残すなら絞り込みすぎではないか。図の吹き出し等の例示で書くなら差支えないが、戦略の本文としてなら、もっとキッチリ書いた方が良い。
- 水辺の箇所、湿地、ため池、遊水地の記載がない。海辺については、自然海岸や渚という言葉があってもよい。言葉が姿として、地域全般を統括する生態系、地域戦略の全体像を網羅しているかどうか、もう少し検討すべき。
- 4-3ページ、2-1の目標のうち、1,2,3は行政施策の目標だが、地域の生物多様性に関する目標をちゃんと書くべき。生物多様性を劣化させないようにする目標を2020年にする、しないと、2050年には生物多様性がこうなっているなど。事務局案は、組織がつながる体制や社会基盤、環境学習など記載してあるが、倉敷固有の生物多様性を守るということだけが目標らしい目標となっている。目標の期間や短期目標・中期目標を含めて、見直した方が良い。
- 委員長 項目三つは必要だと思うので、追加は4,5あたりで。あるいは、構成上、基本方針の次に出てくるであろう施策に書き込めば良いかもしれない。目標と施策の両方を記載しても良いが、それでは肝心の生物多様性についての目標が明確に見えてこない。市民が自分たちが何をすればいいのか、何を目標にすればいいのか明確にわかるような趣旨の目標をきちんと書いた方が良いのではないかと。
- 事務局 目標を書かずに目指すべき将来像だけを示している事例もある。
- 50年後または30年後などの将来像をバックキャストのような形で示して、次の各将来像をもう少し厚く書いて施策に繋げる書き方にさせていただいても良いのではないかと。
- 委員 事務局案の内容では将来像の支える目標値が見えてこない。数値目標は可能な限り書いた方が良い。先ほど言われたように整理されるなら、戦略の目標は施策目標になるので、書き方を明確にした方が良いのでは。
- 委員 数値目標の設定の仕方も何パターンか考えてはどうか。
- 委員 国のように数値を設定するやり方もあるが、例えば各団体・各事業者で生物多様性のためにできることを各自で目標を定めてもらう、市としてそのように目標を掲げる団体を増やすことを戦略の目標にしても良いのではないかと。

- 委員 施策の目標として全体を増やす、活動をどのようにするなどの目標があり、計画そのものの目標としても数値目標があっても良いのではないかと。数値目標が難しければ数値目標に代わるようなものを。国の戦略は格好よく書いている。
- 委員長 具体的な目標については、次回検討しましょう。
- 委員 4-4ページについて、(1)と(2)の項目は逆にした方が良いのではないかと。身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境の保全・回復・再生が大目標ではないかと思う。
生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりの把握と、自然とのふれあいの促進は(2)に付随して出てくるものではないか。そういう意味で(2)が(1)に来た方が良いと思う。
また、(1)の「また、自然とのふれあいを促進するとともに～体験型ツーリズムなどを促進します」は(4)と合体させた方が良いのではないかと。
(3)の「地域開発に関しては～」は、(2)のための重要な施策ではないか。保全・回復・再生の目標を守っていくための施策として地域開発への配慮が重要なので、(2)に持ってきた方が適切ではないかと思う。
- 事務局 (1),(2)の順番については、方針の後の具体的な施策として、調査・研究の関係で自然史博物館を一番最初に持ってきていたいという意図があり、メインとしている。地域開発については(3)は、民に委ねる部分が大きい部分として一まとめにしたので、具体的な効果の繋がりから見て、(2)に移しても良いかと思う。
- 事務局 今後のスケジュールについて(説明)
- 委員長 閉会